

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490800396	事業の開始年月日	平成29年12月1日
		指定年月日	平成29年12月1日
法人名	株式会社ソラスト		
	グループホームソラスト西柴		
所在地	( 236-0017 ) 神奈川県 横浜市 金沢区 西柴 2-28-8		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	6名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和2年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和3年2月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西柴は入居者様変わらず、お元気です。長い方から15年、13年、7年、4年(2人)、3年と続きます。皆さんADLが落ちない事が自慢です。それを支えるスタッフも看護師資格のある方が2人、介護福祉士が5人とスキルも高く、また医療連携も良く取れていると自負しています。地域のコミュニティの活動も盛んで、長く代表を努めていた方が、第1回目の運営推進会議からずっと、出席されています。ご近所の方も優しく、タオルやお花を寄付して下さったり、こちらも消毒液やお魚(スタッフからの差し入れ)を配ったりと、お互い良好な関係を築いています。建物は古いですが、それを感じさせない贅沢な作りです。高齢者の方に快適に過ごして欲しいとの創設者の思いが、今も生きています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年11月18日	評価機関 評価決定日	令和3年2月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は京急「金沢文庫」駅からバスで「西柴四丁目」下車、徒歩約8分の閑静な西柴団地の住宅街にあります。高台からの眺望が素晴らしく、近くには果樹園や農園もあります。一部上場の法人は、各種介護福祉施設・老人ホーム・保育園などの事業を全国的に展開しています。

<優れている点>

事業所の管理計画や都合を優先するのではなく、あくまでも利用者ファーストの運営を心掛けています。職員も毎月のスタッフミーティングでの提案だけではなく、日常的にも改善を提案し実施しています。利用者の融和にとって良いと思われる席替えを職員の判断でその場で行い、事後承諾を得たケースもあります。管理者・ケアマネジャー・職員の信頼関係が利用者支援に良い影響を与えています。地域の人脈に精通している民生委員のリーダーや老人会の会長などと密に連携しています。地元の催事や行事に参加したり、事業所の行事に近所の人を招待するなど、相互に交流しています。近所の果樹園や農園から作物の差し入れがあったり、近くの高産物を頂いたりなど、地域との繋がりを大事に地域密着型サービスの具現化に努めています。

<工夫点>

「資格取得費用援助」「入社バースデー(社員の入社日祝い)」「サンクスポイント(職員の月間功労賞)」「おやつ支給」など、法人による諸制度を最大限に活用し、職員のモチベーション・アップを図っています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームソラスト西柴
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を額に掲げています。日々の業務の中、スタッフ皆で確認し、実践に努めています。	「お互いを認め合い、彩りのある生活」という理念を職員の多くが理解しています。支援場面での指針は「意思と自発性の尊重」「行動制限を避ける」としています。新入職員には実践場面でも管理者がさり気なく注意を喚起し、理念を確認し合っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で、外出もままならない中、散歩が唯一の息抜きです。行き交う方々とあいさつを交わしています。	民生委員のリーダーや老人会の会長など地元有志との繋がりが強く、自治会行事への参加や事業所の行事に近隣住民を招待するなど相互に交流しています。中学生の職業体験や事業所取材にも協力しています。AEDは近隣住民の緊急時に提供をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年も、地域の中学生を職業体験で受け入れる事ができました。まだ2月はコロナの影響もなかったので、ホームでのイベントにチラシを配り、ご近所のポストに入れさせていただきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	顔を見合わせる会議は、1回のみでしたが、書面会議で皆さまからの意見を募り、報告書に反映しています。スタッフにも目を通してもらい、ご家族の想いを共有しています。	運営推進会議には、民生委員、老人会、ケアプラザ、近隣住民、家族が出席しています。運営状況報告や事故・ヒヤリハット報告の他、地元の情報交換など出席者から活発な発言があります。議事録は区の福祉保健課に提出し、意見を聞いています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	今年は介護相談員の来訪も自粛となりました。生活支援課の方から、定期的に電話連絡を頂いております。	運営推進会議・介護度の更新・介護相談員の件で高齢障害支援課と連携しています。生保関係で生活支援課と民生委員は福祉保健課と連携しています。能見台ケアプラザの包括支援センターにも相談しています。金沢区グループホーム連絡会に参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一時、退院したての入居者に対してツナギの着用を余儀なくされましたが、毎日、記録をつけ皆で検討し最短の日時で、解放する事ができました。その後もツナギはありません。	身体拘束適正化委員会を定期的に開催しています。マニュアル研修を行い、事業所内にテーマが無い場合は、他事業所の事例を教材にしてディスカッションしています。日常の支援では「命令しない・否定しない・急がせない」を目標にしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「身体拘束適正化委員会」の会議を年4回以上開く予定です。今までの会議も出席率は良く、皆の関心の高さが伺えます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者にお一人、成年後見人制度を利用されている方がおり、面会や電話等で月1回の訪問を受けています。その際、意見交換等をして、入居者の権利を害していないかチェックしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年度は新しい入居者、退居される方はいませんでした。コロナ禍のため、自粛要請の通知を出させて頂き、電話等で説明をおこないました。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で、電話での対応に限りますが、ご家族と意見交換を行っております。厚生労働省のアンケートに協力いただいた家族もあり、その際、利用者の要望を聞き、スタッフと共有しました。	コロナ以前は、運営推進会議の出席者の意見を聞き、面会や行事の折にも希望や意見を聞いて参考にしています。厚生労働省や全日本グループホーム協会からのアンケート調査に関して、家族の協力で得た内容も運営の改善に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や、管理者は、日々の業務の中で、職員の意見・要望を聞く様に努めています。また、スタッフミーティングや、毎日の申し送りに意見交換を行っています。	毎月のスタッフミーティングの中で活発な意見交換や提案をしています。申し送りノートにも新たな提案や利用者の為になる現場対応を記録して、職員間で共有しています。業務シフトや休日の割り振りは、職員同士で調整し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、ソラストの福利厚生の一部として毎月、「サンクスポイント」「入社バースディ」「おやつ」等の申請を欠かさず行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今年はコロナ禍のため、顔を合わせて研修ができない状態ですが、パソコンやスマホの「ソラスクール」でいつでも研修ができます。新人の職員は基礎的な研修が欠かせません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年は「金沢区グループホーム連絡会」の会議は、書面で開かれました。メールや、電話で、情報交換を余儀なくされました。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期の見学はお断りしていました。最近はお応じています。家族の要望、本人の希望をお聞きします。職員と一緒に情報を共有し、いつでも、どの様な事でも聞ける、安心できる雰囲気を作る様、努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居に至るまでの経過をよくお聞きし、家族の想いを受け止め、共有し、安心を促す様、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居に至るまでの生活、状況をお聞きし、本人の心の安定を第一とし、サービスとコミュニケーションに力を入れて参ります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	朝はハンディ掃除機でお掃除から始まり、お茶煎れや下膳をお願いしています。声かけすればできる行為を奪わない様、気をつけながらおこなっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	今年の会議は顔を見て行えませんでした。が、書面や電話を通じて情報交換をしています。コロナが治まったら、なるべく、会いに来ていただきたい所です。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年は、外出もままならず、歯がゆい思いをしています。馴染みの方には、電話や書面で、なるべく状況をお伝えしています。	一人ひとりの生活歴・親戚関係・友人・趣味などを把握し、来訪の際の対応や利用者との会話に活かしています。入居後に洋服店や地元スーパーなど、新たな馴染みの店も出ています。散歩の時には、顔見知りの近所の人と挨拶を交わし交流しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	少人数のホームなので、利用者同士の関係にはとても気を使います。ウマが合わない同士には、食事の時間をずらす様、工夫をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した方との連絡は、守秘義務の観点から、こちらから行っていません。相談があれば、できる限り支援いたします。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとり、個性の違いを把握し、尊重し、自由な生活を第一に考え、支援していきます。	職員は一人ひとりの個性や意向を尊重しています。心の奥にある思いを汲み取ることは難しさもありますが、現役時代の思い出や得意だったことを話題にしたり、これまでの生活歴を参考にして、その人らしい暮らしができるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の状況を参考に、本人を把握し、入居した事によっての心の変化に着目し新しい生活に馴染んでいただける様、声かけしていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝は自室の掃除から始まり、できる事はお願いしています。血圧も自分で記録して頂いたり、何よりトイレに尿意を感じたら、いつでも、何回でもご自分で通える事を、大事にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人が安心して、生活頂ける様、ご家族の力をお借りしています。電話等で意見交換を行い、ケアマネージャーや、訪問看護師の意見を介護計画に盛り込んでいます。	看護師も必ず参加する毎月のスタッフミーティングで、カンファレンスとモニタリングを行っています。家族の意見を聞き、業務日報で確認しながら短期・長期の期限に拘らず、現状に応じて介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフミーティングをなるべく月1回、看護師の訪問する時に行います。集まりは良く、入居者の状況を話し合い、議事録に興し、皆で実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本年は、コロナ禍でご家族を始め、他からの来訪は控えています。また外出もままなりません。収束したら、ボランティアの方々を積極的に迎えたいと考えます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今年は無理ですが、状況が落ち着いたら地域での催し物に積極的に参加していきたいと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隔週に、訪問診療があります。また、毎週、訪問看護師さんが訪れ、かかりつけ医との連携も取れています。	利用者は協力医の月2回の訪問診療を受けています。週に1回看護師が健康管理を行い状況を内科医と相談しています。認知症について薬剤師とも薬の相談をしています。整形受診は管理者が付き添っています。歯科は週1回、口腔ケアも含め重要視しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週訪れる訪問看護師さんに、職員は情報を提供できます。気軽に話し合える雰囲気もでき、指示が通りやすい良好な関係を築けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、管理者は詳しい情報を病院関係者やご家族と共有します。短期の入院で済む様に、その旨を病院へ伝え、病院を訪れ情報を頻繁に得る事に努めます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や緊急時、延命処置を行うか否か、対応を本人やご家族に確認し、書面にしたためました。簡潔にした表を張り出し、職員に周知して頂いています。	看取り指針を文書化しています。入居時ターミナルケアの希望を聞き取り、医療処置に関して同意書を交わしています。医療連携を取り、看護師を中心に健康管理をし、体調の変化にも丁寧に対応しています。職員にも看取りの心構えや意向を聞き精神的支援もしています。	看取りの実績を踏まえて、実際に役立つ研修の場の設定も期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	玄関先にAEDを設置して、ご近所の方が活用できるようにしています。スタッフミーティング時に、感染症対策のシュミレーションを行いました。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	今年はコロナ禍で、避難訓練もミーティングで確認し合いました。地域の方とも、回覧板や様々な交流を通して協力体制を築いています。	夜間想定避難訓練についてスタッフミーティングで手順を確認しています。例年は、地域の防災訓練にも参加しています。自治会への加入や推進委員会などでの交流を通じて、防災面の協力体制ができています。食糧、水など3日分備蓄しています。	簡易トイレやガスボンベなどの用意がありますが、さらに必要品の備蓄を充実させることと、細かなリストの作成で管理することも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人、違った個性をお持ちです。時にはぶつかる事もあります。それぞれの言い分を受け止め、エスカレートしない様、制止したり、見守りしたり適度に声かけをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の生活習慣を大切にしています。職員は、1対1の散歩時やお部屋で、お話を良く聞き、思いを受け止めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食べる事に時間がかかる方は、せつかず、また入浴もゆっくりおこなって頂いています。日中は自室で過ごしたい方や、リビングで過ごされる方、自由に居られる様、雰囲気を作っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節毎に衣類を箆笥に衣替えしていますが、割合、いつも同じ洋服に固執します。できるだけ、清潔に保つ様、抵抗が少ない時間帯に洗濯をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	いつも、作り立ての食事を提供しています。揚げ物も多く、案外肉類も皆さんお好きです。もやしのひげ取り、食器洗い、下膳、片付け、皆さんと一緒にこなっています。月に1回程度、い、楽しみにしています。	食べることを楽しめるように食前に口腔体操をし、口腔のケアも重視しています。配食業者からメニューと食材が届き、職員が調理して温かく出来立ての料理を提供しています。誕生会にはケーキを用意し、敬老会のイベントには寿司の出前を取り楽しんでます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立はしっかりカロリー計算されています。水分量、食事摂取量も毎回、チェックして、記録に残しています。体重も毎月チェックしており、急な増減に気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎週訪問歯科があり、義歯の汚れや不具合等、その都度、対処しています。毎食後の歯磨きも、スタッフが仕上げに歯間ブラシを用いて念入りにおこなっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中も夜間も、尿意を感じたら皆さん、ご自分でトイレに行かれます。車椅子の方も、要求通り、トイレにお連れします。入院中、リハビリパンツだった方も、現在日中は、綿の下着となっています。	利用者はほぼ自分でトイレに向かっています。職員はチェック表でパターンを把握し、回数が多くても事務所モニターで安全を見守っています。病院からの退院後、職員の適切な支援により尿意が戻り、オムツから元の下着に戻った事例があります。便秘には内服、座薬で対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝の体操や、自室の掃除、散歩を通してできるだけ、身体を動かして頂いています。この頃は皆さん、排便促進剤なく排泄できます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	皆さん、誘わないとなかなか入浴されないのが、入浴の日は決めています。気分がのらない時は、強要は致しません。6人という少人数なので、ゆっくり入浴頂いています。	窓があり明るい浴室で、週2回の入浴時間もゆったりとっています。洗顔料は個々で用意しており、入浴後は乾燥防止のため保湿剤を塗っています。入浴拒否の場合は無理強いせず、一人ひとりの特性を考慮して対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの、気分次第でいつでも自室で過ごす事ができます。皆さん好きな時に、ベッドで横になって居ますが、おやつの時間になると、声かけせずとも、リビングに来られます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとり、なるべく漫然と薬を続けない様、看護師の指導の下、観察を怠らない様に支援しています。薬が変わる時は、効能や副作用をノートに書きだして、注意を促しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	皆さん、歌がお好きです。コロナ禍で、今年は実現できませんでしたが、地域の民謡大会にお連れしたり、音楽のボランティアを呼んだりして、楽しみごとを大事にしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	歩ける方は、日常的に散歩にお連れしています。車いすの方も、天気の良い日は散歩に行く事ができます。外泊、外出はご家族の協力を得られる様、働きかけていますが、今年は難しい様です。	事業所は高台にあり、周囲は展望もよく、緩やかな起伏のある道は散歩には適度な運動になっています。散歩中、ミカン畑の人からミカンを貰ったり、畑で野菜栽培する人が大根などの作物を差し入れてくれるなど、地域の人々との馴染みの関係の中で散歩を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	今年は、外出の機会が少なかったのは残念です。そろそろ車で買い物や、地域への行事の参加等、可能ならばできるだけ出かけたと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	今年は、電話に頼る事が多かったです。お誕生日もご家族は、来る事が叶わず、電話でのやり取りでした。ご家族が来ない事の不満を訴えられた時にも電話で対応して頂きました。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングや各居室の照明や、温度、湿度管理は快適に保つ様、職員が気を配っています。壁飾りも季節を感じる事が出来るよう、その都度変えています。入居者と一緒に折紙や色画用紙等で、飾りを作る事も楽しみです。	日当たりよく落ち着いた雰囲気のリビングには「落ち葉」やハロウィンの飾りなど利用者と職員合作の季節の飾りがあり、和みの空間です。テーブルで折り紙をしたり、新聞雑誌を見たりゆっくり過ごせる場所です。階段は、堅牢な特製の手すりです安全に昇降でき、足腰鍛錬の場にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1階にリビング、各居室は2階にあります。皆さん、階段を上り下りしながら好きな時間に自分の部屋に戻り、思い思いに過ごせて頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には、その方の大事な小物や写真を飾る事ができます。大きな物でなければ、家具も持ち込む事ができます。小さな仏壇を置いている方もいらっしゃいます。	居室は1室を除いて2階にあります。カーテン、ベッド、エアコンを備え、好みの日用品を持ち込んでいます。利用者は毎朝クリーナーやモップ掃除をして一日を始めています。休みたい時は自由に部屋で過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	朝の掃除は入居者の方をお願いしています。血圧を測ったら数字を記入して頂いたり、食事の後の下膳もお願いしています。「お気に入りの様服を盗られて無い」と訴える方には、「ただ今、洗濯中」との張り紙をして納得いただく事もあります。		

令和2年度

事業所名 グループホーム ソラスト西柴

作成日： 令和 3 年 2 月 19 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	皆さんADLは目立って落ちていませんが、コロナ禍で急激な体調の変化も考えられます。看取りとなると、通常の状態ではないので、更なる準備が必要ですが、スタッフの心構えも十分ではありません。	このまま、ワクチン接種まで陽性者を出さず、もし発症しても最少に抑えたいです。 ターミナルにも積極的にケアできるスタッフのこころを養いたいです。	コロナに対しての物資を欠かさず補います。看取りに対しては、ターミナルに関する研修をスタッフミーティングで取り上げます。	6ヶ月
2	35	地震や天災の災害時に備え、備蓄が不十分。電気供給が途切れた場合の準備もありません。	災害時、地域の方も受け入れられる程の物資を用意します。発電器を用意したいです。	倉庫、物置の整理を進めます。少しずつ物資を揃え、リストを作成します。発電機の使用を検討します。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月